

附 件

1. 暂定实施计划的修订

中日双方同意对1993年2月27日在北京签署的关于该计划的暂定实施计划如附页1所示进行修订。

2. 该项目的运行

- (1) 确认了项目实施中中日双方的投入经费如附页2所示。
- (2) 关于中心办公楼，中方表示计划于1996年底以前完成，并确保在其建成投入使用前由中方提供暂定设施，对此，日方根据1993年签署的会谈纪要要求尽可能早日完成，中日双方确认了早日完成的必要性。
- (3) 关于中心的组织体制，中日双方确认，中心作为正式机构是必要的。
- (4) 关于中心人员的编制，中日双方确认，需要由现有人数增加到接近编制的30人。
- (5) 关于在中心进行的培训，中日双方同意修改为每年举办六期，每期培训时间为15天~20天。

3. 关于会谈纪要附表的修订

考虑到水利部的机构改革，中日双方同意将1993年2月27日签署的会谈纪要附表IV联合委员会组成和附表V项目运营组织机构图中的水利部外事司改为水利部国际合作司、水利部农村水利水土保持司改为水利部农村水利司。

附页1

I 项目活动计划

项 目	1993	1994	1995	1996	1997	1998
1. 灌溉排水技术开发						
(1) 旱田灌溉规划设计基本参数的确定						
(2) 引进先进的灌溉方法						
(3) 施工技术的研讨						
2. 水管理技术开发						
(1) 掌握水利用现状						
(2) 用水管理程序的开发						
(3) 明渠流况模拟程序的开发						
3. 规划设计技术标准的整编						
(1) 介绍日本土地改良事业各类规划设计技术标准						
(2) 编写灌溉排水有关技术参考资料 (技术指南)						
(3) 编制定型设计图册						
(4) 水库灌区管道输水技术的研讨						
4. 系统开发						
(1) 灌溉排水工程基本资料管理系统开发						
(2) 灌溉排水工程计算系统的开发						
(3) 灌溉排水设施管理系统的开发						
5. 培训						

备注：表中年度是与日本会计年度对应的年度（从每年4月1日至来年3月31日）。

附页2

日本实际投入

1. 派遣专家

(1) 长期专家

姓名	担当业务	期间
平田 四郎	专家团团长	1993. 6. 10~1995. 6. 9
大原 正裕	业务协调	1993. 6. 10~1995. 6. 9
日高 修吾	规划设计标准	1993. 6. 10~1995. 6. 9
山下 宏基	灌溉排水	1993. 6. 10~1995. 6. 9
川部 伸治	水管理	1993. 6. 10~1995. 6. 9
菊池 由则	系统开发	1993. 12. 15~1995. 12. 14

(2) 短期专家

姓名	担当业务	期间
见手仓 幸男	土地利用	1994. 1. 26~1994. 2. 23

2. 接受研修人员

姓名	研修专业	期间
乔 玉成	灌溉排水(考察)	1993. 11. 1~1993. 11. 21
胡 本瑞	灌溉排水(考察)	1993. 11. 1~1993. 11. 21
刘 洪先	灌溉排水(集体培训)	1994. 2. 7~至今

3. 器材援助

援助器材总金额

会计年度	金额(日元)	备注
1993	32,000千日元	在日本采购
	18,000千日元	在中国采购
合计	50,000千日元	

4. 当地经费负担事业

会计年度	活动经费	金额(元)
1993	当地业务费	74,273元
	骨干技术人员培养对策费	205,000元
合计		279,273元

中方实际投入

1. 对口人员配置

姓 名	担 当 业 务	现 职
乔 玉成	中心负责人	中心主任
赵 竞成	技术总负责	中心总工程师
胡 本瑞	灌溉排水·水管理	平谷县水利局副局长
刘 春元	办公室负责人	中心办公室主任
张 盛宏	灌溉排水	中心灌溉排水部部长
陈 德春	灌溉排水	中心灌溉排水部
刁 军	灌溉排水	中心灌溉排水部
王 留运	水管理	中心水管理部部长
陆 文红	水管理	中心水管理部
许 复初	水管理	中心水管理部
年 立新	水管理	中心水管理部
沈 秀英	规划设计标准	中心规划设计标准部部长
刘 洪先	规划设计标准	中心规划设计标准部
郎 文聚	规划设计标准	中心规划设计标准部
樊 建明	系统开发	中心系统开发部
吉 晔	系统开发	中心系统开发部
问 兰芝	培训	中心培训部
杨 碧茹	培训	中心培训部
王 晓玲	培训	中心培训部
曲 强	培训	中心培训部

2. 当地经费

年 度	部 署	金 额 (元)
1993	办公室	451,666
	灌溉排水技术开发部	90,270
	水管理技术开发部	59,065
	规划设计标准部	53,565
	系统开发部	53,065
	培训部	87,702
合计		795,333

3. 土地、建筑物、设施

面积800m²、暂定设施的房子间数共24间。

付属資料3. 活動分野別調査整理表

詳細活動別調査整理表(案)

活動分野: 灌漑排水

担当団員

1993年度

項 目		
活動項目(詳細)		<ul style="list-style-type: none"> ・C/P と今後の灌漑排水部の仕事の進め方について打合わせを行う。 ・海子ダム灌漑試験区 2,000ha-の水利用実態を調査し、用水計画案を作成する。 ・試験圃場予定地においてインテクレートの調査を行い、灌漑方法及び灌漑強度の決定の際の資料とする。 ・中方で施工を予定しているパイプライン工事において施工管理技術の向上を図る。
目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・畑地灌漑計画における灌漑方法及び灌漑強度決定の際の資料とする。 ・出来型管理、品質管理等の施工管理基準が向上する。
指 標		<ul style="list-style-type: none"> ・試験圃場におけるインテクレートの調査手法 ・パイプライン工事における施工管理基準
効 果	技術移転項目(目録)	<ul style="list-style-type: none"> ・インテクレートの調査方法と灌漑計画への応用手法 ・パイプライン工事における出来型管理、品質管理等の施工管理基準
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・海子ダム灌漑区全体へ調査手法の普及。 ・施工管理基準の向上。
担 当 専 門 家		山下 宏 基
カウ ン ター パー ト		張 盛 宏・陳 徳 春・ 軍
投 入	短 期 専 門 家	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用計画及び施工管理 ・土壌物理
	機 材	未到着
	日 本 研 修	該当なし
経 費	日 本	
	相 手 側	
これまでの状況と課題		<ul style="list-style-type: none"> ・6/10に赴任していらい、モデルインフラ整備事業申請書・試験場予定地での土壌浸透能調査・実施設計調査団との協議等を行った。 ・日本から到着予定の供与機材を使用して気象特性調査及び土壌水分調査を早期から開始し、データを収集整理する。
今後の対応		

詳細活動別調査整理表（案）

活動分野： 灌漑排水

担当団員

1994年度

項 目		
活動項目（詳細）		<ul style="list-style-type: none"> ・気象観測装置（風速・雨量・気温・湿度・日照）による気象特性調査を行う。 ・試験圃場においてテンションメーターによる土壌水分測定調査とインテークレート試験による土壌浸透能調査を行い畑地用水量算定の基礎とする。 ・試験圃場の建設を通して出来型管理、品質管理等の施工管理基準の向上を図る。
目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分特性調査、畑地水分消費調査、気象特性調査を行い水分補給のための用水量算定の手順を行う。 ・出来型管理、品質管理等の施工管理基準の向上を図る。
指 標		<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査結果より、水分補給のための用水量算定手法 ・出来型管理、品質管理等の施工管理基準
効 果	技術移転項目 (目録参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分特性調査、畑地水分消費調査、気象特性調査を加味した畑地用水量算定の手順 ・出来型管理、品質管理等の施工管理基準
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・海子ダム灌漑区全体へ調査手法の普及。 ・施工管理基準の向上
担 当 専 門 家		山下 宏 基
カウ ン ター パー ト		張 盛 宏・陳 徳 春・ 軍
投 入	短 期 専 門 家	土壌物理
	機 材	気象観測装置、テンションメーター、インテークレート測定器具
	日 本 研 修	軍
経 費	日 本	
	相 手 側	
これまでの状況と課題		
今後の対応		

詳細活動別調査整理表(案)
活動分野： 灌漑排水

担当団員

1995 年度

項 目		
活動項目(詳細)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 気象観測装置(風速・雨量・気温・湿度・日照)による気象特性調査を行う。 ・ 試験圃場において土壌水分測定調査と土壌浸透能調査を行い畑地用水量算定の基礎とする。 ・ 上記の調査と平行して作物別最適灌漑用水量と灌漑時期を調査する。 ・ パイプライン及び試験圃場に関する施工管理技術を取り纏める。 ・ 上記の各調査結果を基に畑地灌漑計画に関する基本諸元決定方法のマニュアルを作成する。
目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌水分特性調査、畑地水分消費調査、気象特性調査を行い水分補給のための用水量算定の手順を行う。 ・ パイプライン及び試験圃場の施工管理基準を取り纏める。
指 標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の各種調査を行い水分補給のための用水量算定。 ・ 作物別最適灌漑用水量及び灌漑時期の調査。 ・ パイプライン及び試験圃場に関する施工管理技術。
効 果	技術移転項目(願、績)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌水分特性調査、畑地水分消費調査、気象特性調査を加味した畑地用水量算定の手順。 ・ 作物別最適灌漑用水量及び灌漑時期。
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ パイプライン及び試験圃場に関する施工管理技術の向上。 ・ 節水灌漑技術が広く普及する。
担 当 専 門 家		山下 宏 基
カウ ン ター パー ト		張 盛 宏・陳 徳 春・ 軍
投 入	短 期 専 門 家	
	機 材	暗渠掘削機、ブルドーザー、バックホー
	日 本 研 修	張 盛 宏
経 費	日 本	
	相 手 側	
これまでの状況と課題		
今後の対応		

詳細活動別調査整理表 (案)

活動分野: 灌漑排水

担当団員

1996 年度

項 目		
活動項目 (詳細)		<ul style="list-style-type: none"> ・試験圃場において気象特性調査・土壌水分特性定調査及び畑地水分消費調査を行い畑地用水量を算定する。 ・作物別最適灌漑用水量と灌漑時期を調査し、その結果を取り纏める ・上記の各調査結果を基に畑地灌漑計画に関する基本諸元決定方法のマニュアルを作成する。 ・スプリンクラー及び点滴灌漑の施設設計に関する技術の紹介と灌水試験結果を取纏める。
目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分特性調査、畑地水分消費調査、気象特性調査を行い水分補給のための用水量算定の手順を行う。 ・畑地灌漑計画に関する基本諸元決定方法のマニュアル作成。
指 標		<ul style="list-style-type: none"> ・各種基礎調査を行い畑地用水量の算定。 ・畑地灌漑計画に関する基本諸元決定方法のマニュアル作成。 ・各種灌漑施設に関する技術の紹介と灌水試験。
効 果	技術移転項目 (目録)	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分特性調査、畑地水分消費調査、気象特性調査を加味した畑地用水量算定の手順。 ・畑地灌漑計画に関する基本諸元決定方法のマニュアル作成。
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・節水灌漑技術が広く普及する。
担 当 専 門 家		山下 宏 基
カウ ン ター パー ト		張 盛 宏・陳 徳 春・ 軍
投 入	短期専門家	
	機 材	
	日 本 研 修	
	経 費	日 本
	相手側	
これまでの状況と課題		
今後の対応		

詳細活動別調査整理表 (案)

活動分野： 灌漑排水

担当団員

1997 年度

項 目		
活動項目 (詳細)		<ul style="list-style-type: none"> ・試験圃場において気象特性調査・土壌水分特性定調査及び畑地水分消費調査を行い畑地用水量を算定する。 ・作物別最適灌漑用水量と灌漑時期を調査し、その結果を取り纏める ・各種基礎調査結果を基に畑地灌漑計画に関する基本諸元決定方法のマニュアルを作成する。 ・スプリンクラー及び点滴灌漑の施設設計に関する技術の紹介と灌水試験結果を取纏める。
目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・各種基礎調査を行い畑地用水量を算定する。 ・畑地灌漑計画に関する基本諸元決定方法のマニュアルを作成する。 ・各種灌漑施設に関する技術の紹介と灌水試験結果を取纏める。
指 標		<ul style="list-style-type: none"> ・各種基礎調査を行い畑地用水量の算定。 ・畑地灌漑計画に関する基本諸元決定方法のマニュアル作成。 ・各種灌漑施設に関する技術の紹介と灌水試験。
効 果	技術移転項目 (種、類)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種基礎調査を基にした畑地用水量の算定方法。 ・畑地灌漑計画に関する基本諸元決定方法のマニュアル作成。
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・節水灌漑技術が広く普及する。
担 当 専 門 家		山下 宏 基
カウ ン ター パー ト		張 盛 宏・陳 徳 春・ 軍
投 入	短 期 専 門 家	土壌物理
	機 材	
	日 本 研 修	
	経 費	日 本
	相 手 側	
これまでの状況と課題		
今後の対応		

詳細活動別調査整理表(案)
活動分野: 水管理

担当団員

93年度

項 目		
活動項目(詳細)		<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの目的・成果等の確認及び活動計画の策定 日本の水管理技術の紹介及び中国の水管理に関する資料整理 プロジェクトエリアの既存資料の整理 代表的な灌漑区の現地調査
目 標		<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト活動内容及び%の役割の明確化 「水管理」に対する問題意識の高揚
指 標		<ul style="list-style-type: none"> 活動計画の策定 調査結果の整理及び報告書の作成
効 果	技術移転項目 (目標、指標)	<ul style="list-style-type: none"> 5年間及び93年度、94年度の活動計画が策定された。 海子ダム、河南省人民勝利区の調査報告書が作成された。
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> センター外の講師による水管理に関する内部研修が実施された。 %が4回研修「圃場の水管理」の講師となった。
担 当 専 門 家		川 部 伸 治
カウンターパート		王 留 運、許 复 初、陆 文 紅
投 入	短期専門家	水管理(森戸水公団愛知用水管理課長)
	機 材	パソコン 1台
	日 本 研 修	なし
	経 費	日 本
相 手 側		
これまでの状況と課題		<ul style="list-style-type: none"> 当地は、通常年に5回(3,4,5,9,11月)の灌漑が実施されているが、今年8月の長雨、11月の大雪により、灌漑が実施されていない。このため、着任以来、既存資料の収集・分析がまだ十分な現地調査が出来ていない。
今後の対応		<ul style="list-style-type: none"> 水路の流量観測や支線取入口の取水能力調査など、既存施設の状況調査に重点を置いた活動を行う。

詳細活動別調査整理表(案)
活動分野: 水管理

担当団員

94年度

項 目		
活動項目(詳細)		<ul style="list-style-type: none"> 既存資料の精度の確認及び補完のための現地調査の実施 ①水路の流量観測 ②支線取水量調査 ③未端圃場の水利用状況 ④施設管理規則等整備状況 他 旧四支線の水管理体制の整備
目 標		<ul style="list-style-type: none"> 活動に必要な基礎技術・理論の習得及び資料の入手 試験圃場の適正な管理運営体制の確立
指 標		<ul style="list-style-type: none"> 流量観測の実施回数, 取水量調査支線数, 調査圃場数等 水管理体制の活動状況
効 果	技術移転項目 (目標、指標)	<ul style="list-style-type: none"> 流観等の基礎調査が自力で実施出来るようになる。 先進的な水管理方法を9/9が体験出来るようになる。
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> 「水利用実態調査」のための研修資料が整備される。 水管理体制を整備する事で周辺農家の節水意欲が向上する。
担 当 専 門 家		川 部 伸 治
カウンスラバート		王 留 運 許 復 初 陆 文 系
投 入	短期専門家	<ul style="list-style-type: none"> 流量観測(20日間) 水管理システム(20日間)
	機 材	各種水位計, 流量計他
	日 本 研 修	陆 文 系(集団研修「水管理」)
経 費	日 本	
	相 手 側	
これまでの状況と課題		
今後の対応		

詳細活動別調査整理表 (案)

活動分野: 水管理

担当団員

95年度

項 目		
活動項目 (詳細)		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 現地調査・収集資料の整理による問題点の把握 ◦ 用水管理を行うためのダム水路・圃場等のモデル化 ◦ 開水路の流況解析の実施 ◦ 実際の試験圃場運営に関しての水管理体制の問題点の整理
目 標		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 過去に入手した資料の解析及び問題点の整理 ◦ 水管理計画と実際の管理・運営との着眼点の把握
指 標		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 問題点の整理及び解析の終了した項目数 ◦ 計画と実際の灌漑施設の利用実績の差
効 果	技術移転項目 (目標、指標)	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 調査結果の分析能力の向上 ◦ 実際の管理・運営を考慮した水管理計画策定の必要性の認識
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 現場での水管理経験の蓄積
担 当 専 門 家		
カウンタ-パート 王 留 運, 許 復 初, 陸 文 糸		
投 入	短期専門家	◦ 流況解析 (解析モデルの確認)
	機 材	
	日 本 研 修	王 留 運
	経 費	日 本
	相 手 側	
これまでの状況と課題		
今後の対応		

詳細活動別調査整理表 (案)

活動分野: 水管理

担当団員

96年度

項 目		
活動項目 (詳細)		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 問題点の類型化及びそれぞれに対する対応策の検討 ◦ 用水管理プログラムによるモデルケースの計算 ◦ 北幹線水路のゲート等の構造物の操作規定の策定 ◦ 試験圃場の水管理体制の改善
目 標		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 開水路の挙動についての取りまとめ ◦ プロジェクト実施計画に対する作業の遅れの修正
指 標		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 用水速到時間の設定, ゲート等の操作規定の作成 ◦ 年度毎の指標と実績の差
効 果	技術移転項目 (目標、指標)	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 他地区の開水路の解析が自力で可能となる。 ◦ 工程管理・事業管理の概念が導入される。
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 「開水路の流況解析」の研修が実施可能となる。
担 当 専 門 家		
カウソナーパート		王留運, 許復初, 陆文紅
投 入	短期専門家	
	機 材	
	日 本 研 修	許復初
経 費	日 本	
	相 手 側	
これまでの状況と課題		
今後の対応		

詳細活動別調査整理表 (案)

活動分野: 水管理

担当団員

97年度

項 目			
活動項目 (詳細)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 水利用実態の取りまとめ ○ 用水管理プログラムの取りまとめ ○ 試験圃場の管理計画の策定 	
目 標		<ul style="list-style-type: none"> ○ プロジェクトの5年間の終了 ○ プロジェクト終了後のセンター及び試験圃場の自力運営 	
指 標		<ul style="list-style-type: none"> ○ 協力項目毎の成果品 ○ プロジェクト後のセンター及び試験圃場の予算・組織状況 	
効 果	技術移転項目 (目標、指標)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海子ダム灌漑効率向上 ○ 他地区で灌漑効率が自力で実施可能となる。 	
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水管理に関する各種の研修が実施可能となる。 	
担 当 専 門 家			
カウンターパート		王留運, 許復初, 陆文红	
投 入	短期専門家		
	機 材		
	日 本 研 修		
	経 費	日 本	
		相手側	
これまでの状況と課題			
今後の対応			

詳細活動別調査整理表（案）

活動分野： 計画設計基準の整備

担当団員

1993年度

項目		内容
活動項目（詳細）		1. 日本の各種土地改良事業計画設計基準等（以下設計基準）の紹介 2. 中国の排水事業に関する執務参考資料（以下準指針）の基礎資料の作成 3. 研修への協力
目標		1. 設計基準の翻訳を行い中国の準指針作成の資料を提供する 2. 中国の準指針を作成する。 3. 研修において日本の排水及び施設管理技術の紹介を行う
指標		1. 設計基準のうち①畑地かんがい②パイプライン③点滴かんがい④大区画ほ場整備の翻訳及び印刷を行う 2. 中国の準指針作成の基礎資料として、農田水利工程設計規範①田間灌漑排水編 ②管道灌漑輸水編を作成する 3. 研修コース（4回）の講師及び資料提供を行う
効果	技術移転項目（目標・指標）	指標の実施を通じて、日本の畑地かんがい及びパイプライン技術の計画策定及び設計の基本的考え方、並びに灌漑区の管理技術全般について学習した。
	その他	日本の排水事業の計画樹立から維持管理に至る迄の事業の進め方の大要を理解した。特に代表地区における組織的な節水かんがいの手法やその効果発現状況を、今後更に詳細に調査研究し中国灌漑区の管理運営改善に移転したいと意欲を示している。
担当専門家		日高修吾
カウンターパート		沈秀英 劉洪先
投入	短期専門家	
	機材	
	日本研修	劉洪先 1993年 2月 7日～11月18日
経費	日本相手	日本
これまでの状況と課題		日本の設計基準4部の翻訳を行ったが、1994年度には引き続きこれらの内容分析を行い、中国の準指針に反映させるものの検討を行う
今後の対応		1993年度に引き続き設計基準の翻訳(2部)を行うと共に、中国の準指針・農田水利工程設計規範（田間灌漑排水工程）を作成する。

詳細活動別調査整理表(案)

活動分野: 計画設計基準の整備

担当団員

1994年度

項目		内容
活動項目(詳細)		1. 日本の各種土地改良事業計画設計基準等(以下設計基準)の紹介 2. 中国の灌漑排水事業に関する執務参考資料(以下準指針)の作成 3. 標準設計図の作成 4. ダム灌漑区におけるパイプライン化の技術検討 5. 研修への協力 6. 節水セミナー
目標		1. 設計基準の翻訳及び93年度翻訳完了分の内容分析を行う 2. 中国の準指針を作成する 3. 中国の灌漑排水事業の標準設計図を作成する 4. パイプラインの技術検討を行う 4. 研修資料を作成する 5. 節水セミナーにおいて日本の事例を紹介する
指標		1. 設計基準のうち①水路工(その1)②暗渠排水の翻訳及び印刷を行うほか、93年度翻訳完了4部の内容を分析し中国の準指針へ反映させる資料をまとめる 2. 準指針農田水利工程設計規範、田間灌漑排水編を作成する 3. 標準設計図の資料を収集する 4. 日本のパイプラインの紹介及び技術の検討を行う 5. 研修コースの資料提供及び節水セミナーにおいて事例紹介を行う
効果	技術移転項目(目標・指標)	指標の各項目の実施を通じて、主に水路工の計画及び設計の技術を移転するほか、93年度の翻訳完了分(畑地かんがい、点滴かんがい、パイプラインほか)の内容を把握し、中国の指針に反映させるもを検討し導入する
	その他	
担当専門家		日高修吾
カウンターパート		沈秀英 劉洪先
投入	短期専門家	
	機材	
	日本研修	劉洪先 1994年2月7日～11月18日
経費	日本相手	日本
これまでの状況と課題		前年に引き続き設計基準2部(水路工、暗渠排水)の翻訳を行うが、特に水路施設については調整機能、量、分水施設等節水灌漑に即適用できるものに重点を置き、中国灌漑区の現況改善に役立てる方針で進める
今後の対応		1994年度に引き続き設計基準の翻訳(2部)を行うと共に、中国の準指針・農田水利工程設計規範(田間灌漑排水工程)を作成する

詳細活動別調査整理表 (案)

活動分野: 計画設計基準の整備

担当団員 _____

1995年度

項 目		内 容
活動項目 (詳細)		1. 日本の各種土地改良事業計画設計基準等 (以下設計基準) の紹介 2. 中国の排水事業に関する執務参考資料 (以下準指針) の作成 3. 標準設計図の作成 4. ダム灌漑区におけるパイプライン化の技術検討 5. 研修への協力
目 標		1. 設計基準の翻訳及び94年度翻訳完了分の内容分析を行う 2. 中国の準指針を作成する 3. 標準設計図のうち灌漑施設について作成する 4. 日本のパイプ技術の導入検討を行う 5. 研修資料を作成する
指 標		1. 設計基準のうち①頭首工②畑地帯集水利用の翻訳及び印刷を行うほか、94年度翻訳完了 2部の内容を分析し中国の準指針へ反映させる資料をまとめる 2. 準指針のうち94年度に引き続き農田水利工程設計規範・田間灌漑排水工程を作成するほか、輸水工程設計規範を作成する 3. 標準設計図のうち灌漑施設 (水路工・付帯施設) を作成する 4. パイプの計画、設計、施工管理技術の検討及びその結果報告を行う 5. 研修コースへの資料提供を行う
効 果	技術移転項目 (目標・指標)	指標の各項目の実施を通じて、主に日本の頭首工及び関連する取水工並びに付帯施設の計画設計の手法を移転すると共に、94年度の翻訳完了分 (水路工ほか) の内容を把握し中国の準指針に反映させるほか パイプの計画設計施工技術を移転する
	その他	
担当専門家		日高修吾
カウンターパート		沈秀英 劉洪先 ()
授 入	短期専門家	
	機 材	
	日本研修	
	経 費	日本相手
これまでの状況と課題		前年に引き続き設計基準 2部 (頭首工ほか) の翻訳を行う、96年度にこれらの内容分析を行い、中国の準指針に反映させる
今後の対応		1995年度に引き続き設計基準の翻訳 (2部) を行うと共に、中国の準指針・輸水工程設計規範及び集水工程設計規範を作成する

詳細活動別調査整理表（案）

活動分野： 計画設計基準の整備

担当員

1996年度

項 目		内 容
活動項目（詳細）		1. 日本の各種土地改良事業計画設計基準等（以下設計基準）の紹介 2. 中国の排水事業に関する執務参考資料（以下準指針）の作成 3. 標準設計図の作成 4. ダム灌漑区におけるパイプライン化の技術検討 5. 研修への協力
目 標		1. 設計基準の翻訳及び95年度翻訳完了分の内容分析を行う 2. 中国の準指針を作成する 3. 標準設計図のうち排水施設について作成する 4. パイプラインの計画、設計、施工管理技術導入の検討及びその報告を行う 5. 研修資料を作成する
指 標		1. 設計基準のうちポンプ場の翻訳及び印刷を行うほか95年度翻訳完了分 2部の内容分析を行い、中国の準指針反映資料をまとめるほか、作成した準指針案の水利部の審査を受ける 2. 準指針のうち95年度に引き続き輸水工程設計規範を作成するほか渠首工程設計規範を作成する 3. 標準設計図のうち排水施設（排水路及び付帯施設）を作成すると共に完成した案の審査を受ける 4. 研修コースへの資料提供を行う
効 果	技術移転項目（目標・指標）	指標の各項目の実施を通じて、主に日本のポンプ場の計画設計技術を移転するほか、95年度の翻訳完了分 2部の内容分析を行って、中国の準指針へ反映させるものを検討し吸収する
	その他	灌区の施設設計に標準設計図の使用を指導し普及を図る
担当専門家		日高修吾
カウンターパート		沈秀英 劉洪先（ ）
投 入	短期専門家	
	機 材	
	日本研修	
	経 費	日本相手
これまでの状況と課題		前年度に翻訳完了した設計基準の内容を分析し、中国灌区の実情に適した事項を準指針に反映させる これまでに完成した中国執務参考資料（準指針）案の水利部の審査を開始し制定に向けての調整を進める
今後の対応		1995年度に引き続き設計基準（ポンプ場）の翻訳を行うと共に中国の準指針・輸水工程設計規範を完成し、引き続き渠首工程設計規範の作成に入る

詳細活動別調査整理表（案）

活動分野： 計画設計基準の整備

担当団員

1997年度

項 目		内 容
活動項目（詳細）		1. 日本の各種土地改良事業計画設計基準等（以下設計基準）の紹介 2. 中国灌漑排水事業に関する執務参考資料（以下準指針）の完成 3. 標準設計図の完成 4. 研修への協力
目 標		1. 設計基準のうち96年度翻訳完了分の内容分析を行う 2. 中国の準指針を完成する 3. 標準設計図のうち排水施設を完成する 4. 研修資料を作成する
指 標		1. 設計基準のうち96年度完了分の内容分析を行い、中国準指針え反映するものの取りまとめを行うほか、これまで紹介した項目の総括検討を行う 2. 準指針のうち96年度に引き続き渠首工程設計規範を完成するほか、作成した準指針案の水利部の審査を終える 3. 標準設計図のうち排水施設（排水路及び付帯施設）を完成するほか、全体の総括検討を行う。
効 果	技術移転項目（目標・指標）	指標の各項目の実施を通じて、頭首工及びポンプ場の計画設計技術を移転するほか、灌区の施設設計にこれ迄にまとめた準指針及び標準設計図を使用しその普及を図る
	その他	これ迄行ってきた技術移転の総括を行い、これらの実績が中国の灌漑排水技術の改善、技術水準の向上、技術者の養成及び新技術の普及に対しどのような効果を上げたか、また、今後引き続きどのような対応が必要かを双方討議する
担当専門家		日高修吾
カウンターパート		沈秀英 劉洪先（ ）
役 入	短期専門家	
	機 材	
	日本研修	
	経 費	日本 相手
これまでの状況と課題		前年に行った設計基準の内容分析を行って、中国の準指針に反映させるほか、これまで行ってきた技術移転の内容を総括し今後の対応方針を検討する
今後の対応		

詳細活動項目別調査整理表(案)

活動分野:システム開発

担当団員

1993年度

活動項目(詳細)	<ol style="list-style-type: none"> 技術協力5ヶ年計画の策定 <ol style="list-style-type: none"> 日中双方のシステム開発概要紹介 技術協力5ヶ年計画の策定 下記研修用資料の基礎資料作成 <ol style="list-style-type: none"> データベース技術と事務管理 	
目標	<ol style="list-style-type: none"> 技術協力5ヶ年計画の策定 <ol style="list-style-type: none"> 日中双方のシステム開発概要紹介により現状認識を行う。 技術協力5ヶ年計画を策定することにより技術協力に対する理解、C/P各々の担当内容、進捗計画及び責任を明確にする。 研修用資料の基礎資料作成 研修題材となる『研修人員管理プログラム』を作成する。 	
指標	<ol style="list-style-type: none"> 作成された技術協力5ヶ年計画 研修用資料の基礎資料作成 <ol style="list-style-type: none"> データベース技術と事務管理⇒作成された研修人員管理プログラムの内容 	
効果 (目標、指標)	<ol style="list-style-type: none"> 技術協力5ヶ年計画 技術移転を予定する日本の灌漑排水技術システムの開発概要が理解される。 研修用資料の基礎資料整理 特になし。 	
	その他	
担当専門家	菊池由則	
カウンターパート	樊建明、吉野	
投入	短期専門家	無し
	機材	供与機材 パソコン2台、携行機材 パソコン1台
	日本研修	樊建明(1994.3.21から4ヶ月間)
	経費	
	相手側	
これまでの状況と課題	作成された技術協力5ヶ年計画は、C/Pが少なくとも3名の体制を前提としており、中方へ94年度から増強を申し出している。現在、中方は1名について人選を行っている。	
今後の対応		

詳細活動項目別調査整理表(案)

活動分野: システム開発

担当役員:

1994年度

活動項目(詳細)	1. 技術計算基礎プログラムの開発 2. 灌漑排水施設登録システムの開発 3. 下記研修用資料の作成 (1) データベース技術と事務管理	
目標	1. 技術計算基礎プログラムの開発 プロジェクト期間内に開発を予定している約25本のプログラムのうち、1/3程度を開発する。 2. 灌漑排水施設登録システムの開発 海子ダム灌漑区を事例として、ポンプ、灌漑区施設登録システムのシステム設計、データ収集を行う。 3. 研修用資料の作成 93年度に引き続き研修題材となる『人事管理システム』の作成を行う。	
指標	1. 技術計算基礎プログラムの開発 開発されたプログラムの数及び内容 2. 灌漑排水施設登録システムの開発 システム設計及びデータ収集の内容 3. 研修用資料の作成 当該年度以降に開催される研修の回数	
効果	技術移転項目 (目標、指標)	1. 技術計算基礎プログラムの開発 日本の灌漑排水技術計算基礎プログラムが理解され、中国での使用形態に合致したプログラムライブラリーが形成される。 2. 灌漑排水施設登録システムの開発 日本の灌漑排水施設管理状況が理解され、中国での使用形態に合致した施設登録システムが形成される。 3. 研修用資料の作成 C/Pが『人事管理システム』の作成を通じて、データベース技術と人事管理の考え方を理解する共に、作成された資料が当該年度以降の研修題材となり普及に資する。
	その他	
担当専門家	菊池由則	
カウンターパート	樊建明、吉峰、C/P3	
投機材	短期専門家	1名×1回
	日本研修	樊建明(1994.3.21から4ヶ月間)
人	経費	
	相手側	
これまでの状況と課題		
今後の対応		

詳細活動項目別調査整理表(案)
活動分野:システム開発
1995年度

担当団員:

活動項目(詳細)及び目標	<p>1. 灌漑排水技術計算システムの開発 (1) 技術計算基礎プログラムの開発 プロジェクト期間内に開発を予定している約25本のプログラムのうち、1/3程度を開発する。 (2) 技術計算総合システムの開発 畑地灌漑計画・設計システムのシステム設計、データ収集を行う。 2. 灌漑排水施設登録システムの開発 海子ダム灌漑区を事例として、ポンプ、灌漑区施設登録システムのプログラミングを行う。 3. 研修資料作成 下記研修項目に係るプログラムの作成、収集、整理を行う。 (1) 灌漑排水システムシミュレーション技術 (2) データベース技術と事務管理 (3) BASIC言語及び灌漑排水工程での応用 (4) FORTRAN言語及び灌漑排水工程での応用</p>
指標	<p>1. 灌漑排水技術計算システムの開発 (1) 技術計算基礎プログラムの開発⇒開発されたプログラムの数及び内容 (2) 技術計算総合システムの開発 ⇒システム設計、データ収集の内容 2. 灌漑排水施設登録システムの開発⇒作成されたプログラムの内容 3. 研修資料作成 ⇒当該年度以降に開催される研修の回数</p>
効果	<p>1. 灌漑排水技術計算システムの開発 (1) 技術計算基礎プログラムの開発 日本の灌漑排水技術計算基礎プログラムが理解され、中国での使用形態に合致したプログラムライブラリーが形成される。 (2) 技術計算総合システムの開発 日本の灌漑排水技術計算システムが理解され、中国での使用形態に合致した畑地灌漑計画・設計の総合システムが形成される。 2. 灌漑排水施設登録システムの開発 日本の灌漑排水施設管理状況が理解され、中国での使用形態に合致した施設登録システムが形成される。 3. 研修資料作成 C/Pが研修用プログラムの作成等を通じて当該項目に関する理解を深めると共に、作成された資料が当該年度以降の研修題材となり普及に資する。</p>
その他	
担当専門家	菊池由則
カウンターパート	樊建明、吉野、C/P3
短期専門家	1名×2回
機材	予定なし
日本研修	予定なし
経費	
人	
日本相手側	
これまでの状況と課題	
今後の対応	

詳細活動項目別調査整理表(案)
 活動分野:システム開発
 1996年度

担当団員:

活動項目(詳細)及び目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 灌漑排水事業基本資料管理システムの開発 当該システムのシステム設計、データ収集を行う。 2. 灌漑排水技術計算システムの開発 (1) 技術計算基礎プログラムの開発 プロジェクト期間内に開発を予定している約25本のプログラムのうち、1/3程度を開発する。 (2) 技術計算総合システムの開発 畑地灌漑計画・設計システムのプログラミングを行う。 3. 灌漑排水施設登録システムの開発 海子ダム灌漑区を事例に、前年度作成したプログラムのテストを行う。 4. 研修資料作成 下記研修項目に係るプログラムの作成、収集、整理を行う。 (1) 灌漑工程基本資料管理システム (2) データベース技術と事務管理 (3) BASIC言語及び灌漑排水工程での応用 (4) FORTRAN言語及び灌漑排水工程での応用 	
指標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 灌漑排水事業基本資料管理システムの開発⇒システム設計、データ収集の内容 2. 灌漑排水技術計算システムの開発 (1) 技術計算基礎プログラムの開発⇒開発されたプログラムの数及び内容 (2) 技術計算総合システムの開発 ⇒作成されたプログラムの内容 3. 灌漑排水施設登録システムの開発⇒テストランしたプログラムの内容 4. 研修資料作成 ⇒当該年度以降に開催される研修の回数 	
効果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 灌漑排水事業基本資料管理システムの開発 日本の灌漑排水事業基本資料管理状況が理解され、中国での使用形態に合致した基本資料管理システムが形成される。 2. 灌漑排水技術計算システムの開発 (1) 技術計算基礎プログラムの開発 日本の灌漑排水技術計算基礎プログラムが理解され、中国での使用形態に合致したプログラムライブラリーが形成される。 (2) 技術計算総合システムの開発 日本の灌漑排水技術計算システムが理解され、中国での使用形態に合致した畑地灌漑計画・設計の総合システムが形成される。 3. 灌漑排水施設登録システムの開発 日本の灌漑排水施設管理状況が理解され、中国での使用形態に合致した施設登録システムが形成される。 4. 研修資料作成 C/Pが研修用プログラムの作成等を通じて当該項目に関する理解を深めると共に、作成された資料が当該年度以降の研修題材となり普及に資する。 	
その他		
担当専門家	菊池由則	
カウンターパート	樊建明、吉晔、C/P3	
投	短期専門家	1名×2回
	機材	予定なし
	日本研修	予定なし
	経費	
人	日本	
	相手側	
これまでの状況と課題		
今後の対応		

詳細活動項目別調査整理表(案)

活動分野:システム開発

担当団員:

1997年度

活動項目(詳細)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 灌漑排水事業基本資料管理システムの開発 2. 技術計算総合システムの開発 3. 下記研修資料作成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 灌漑工程基本資料管理システム (2) 灌漑排水システムシミュレーション技術 	
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 灌漑排水事業基本資料管理システムの開発 当該システムのプログラミング、テストランを行う。 2. 技術計算総合システムの開発 前年度作成した畑地灌漑計画・設計プログラムのテストランを行う。 3. 研修資料作成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 灌漑工程基本資料管理システム 『1. 灌漑排水事業基本資料管理システム』開発の97年度成果を研修資料として取りまとめる。 (2) 灌漑排水システムシミュレーション技術 『2. 技術計算総合システム』の開発の97年度成果を研修資料として取りまとめる。 	
指標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 灌漑排水事業基本資料管理システムの開発 → テストランしたプログラムの内容 2. 技術計算総合システムの開発 → テストランしたプログラムの内容 3. 研修資料作成 → 当該年度以降に開催される研修の回数 	
効果	<p>技術移転項目 (目標、指標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 灌漑排水事業基本資料管理システムの開発 日本の灌漑排水事業基本資料管理状況が理解され、中国での使用形態に合致した基本資料管理システムが形成される。 2. 技術計算総合システムの開発 日本の灌漑排水技術計算システムが理解され、中国での使用形態に合致した畑地灌漑計画・設計の総合システムが形成される。 3. 研修資料作成 C/Pが研修用プログラムの作成等を通じて当該項目に関する理解を深めると共に、作成された資料が当該年度以降の研修題材となり普及に資する。 	
	その他	
担当専門家	菊池由則	
カウンターパート	樊建明、吉晔、C/P3	
投入	短期専門家	1名×2回
	機材	予定なし
	日本研修	予定なし
	経費	
	日本	
	相手側	
これまでの状況と課題		
今後の対応		

将来の評価のための現状把握調査票

技術移転

カウンターパート (個人レベル)

C/P 氏名

担当業務 灌漑排水

担当専門家 山下宏基

技術移転項目	現在の状況	終了時の目標	評価把握指標 (評価のポイント)
1. 畑地灌漑計画基本諸元の決定方法の検討	1. 経験的な水利用が行われており、気象及び土壌特性を考慮した畑地灌漑方法が確立されていない。	1. 節水を目標にした畑地灌漑方法が確立される。	1. 気象及び土壌特性の把握 2. 上記の調査結果を基にした畑地灌漑計画基本諸元の策定
2. 先進的な灌漑方法の導入	1. 節水及び灌水作業の省力化等の観点からスプリンクラー及び点滴灌漑法が一部導入されているが、大部分の灌漑面積においては旧態依然とした灌漑が行われている。	1. 圧力式灌漑方法に関する施設設計技術の改良及び新技術の導入を図る。	1. スプリンクラー及び点滴灌漑方法が広く普及し節水が図られる
3. 施工技術の検討	1. 灌漑事業関連の施工については人力主体で行われており、出来型管理及び施工管理基準等が普及していない。	1. 灌漑事業に関する出来型管理及び施工管理基準の必要性を理解し、中国に適応する技術を確立する。	1. 出来型管理・施工管理及び材料の品質管理基準が向上する。

将来の評価のための現状把握調査表

技術移転

カウンターパート（個人レベル）

C/P氏名 沈秀英 劉洪先 担当業務 計画設計基準 担当専門家 日高修吾

技術移転項目	現在の状況	終了時の目標	評価把握指数
1. 日本の各種土地改良事業計画設計基準等の紹介	1. 非常に熱心に日本の基準等の分類整理及び学習を行い、理解力の速さもあって全体的な内容把握と、自分が今後とりまとめるべき方針を確立し実務を進めている	1. 日本側が紹介した各分野の基準等の内容を十分分析し、中国に最も適した手法を採用し取りまとめ	1. 各分野別日中基準の比較表の作成 2. 中国準指針適用項目表の作成
2. 灌漑排水事業に関する執務参考資料（準指針）の作成	1. 1994年度以降作成に入る中国の準指針の基礎となる参考資料（農田水利工程設計規範・田間灌漑排水及び管道輸水灌漑設計規範）を作成した	1. 中国準指針3編を作成する 農田水利工程設計規範 ①田間灌漑排水工程 ②輸水工程 ③渠首工程	1. 中国準指針・農田水利工程設計規範（案）を水利部規範審査委員会のオプイを経て制定する
3. 標準設計図の作成	1. 日本で使用している各種標準設計図集を収集し紹介した	1. 全国灌漑区の実施する設計、施工において構造、安全、経済上有効に活用出来る実用標準設計図集を作成する	1. 標準設計図及び解説書を完成し、水利部のオプイを得る
4. ダム灌漑区におけるパイプライン化の技術検討	1. 日本の土地改良事業計画設計基準の水路工パイプライン編の翻訳及び準指針の基礎資料作成に当り日本の技術の紹介をした	1. 灌漑区におけるパイプライン化の計画設計、設計、施工技術の検討報告書を取りまとめ、執務参考資料（準指針）と共に中国技術者の研修等を通じて普及を図る	1. 検討報告書の取りまとめ及び報告会の開催

将来の評価のための現状把握調査表

技術移転

カウンターパート (個人レベル)

C/P氏名 樊、吉、C/P3

担当業務 システム開発

担当専門家 栗池由則

技術移転項目	現在の状況	終了時の目標	評価把握指標 (評価のポイント)
<p>1. システム開発</p> <p>(1) 灌漑排水事業基本資料管理システムの開発</p> <p>(2) 灌漑排水技術計算システムの開発</p> <p>1) 技術計算基礎プログラムの開発</p> <p>2) 技術計算総合システムの開発</p> <p>(3) 灌漑排水施設登録システムの開発</p> <p>1) ポンプ施設</p> <p>2) 灌漑区施設</p>	<p>『技術計算関係については、水利水電科学研究院における研究成果としてプログラムを保有していると考えられるが、実用化のためのシステムとなっていない。また、情報データベースについては、先端技術の知識を持っているだけで、データベース (D. B.) に関するノウハウ (システム) は確立されていない。』</p> <p>中華人民共和国灌漑排水技術開発研修センター計画事前調査報告書 (平成4年6月) より</p>	<p>左のシステムの開発</p>	<p>開発されたプログラムの数及び内容</p>
<p>2. 研修資料作成</p> <p>(1) 灌漑工程基本資料管理システム</p> <p>(2) 灌漑排水システムシミュレーション技術</p> <p>(3) データベース技術と事務管理</p> <p>(4) BASIC言語及び灌漑排水工程での応用</p> <p>(5) FORTRAN言語及び灌漑排水工程での応用</p> <p>(6) c言語及び灌漑排水工程設計</p>		<p>左の研修資料の作成</p>	<p>資料により開催された研修の回数</p>

付属資料4. 機材リスト

1993年度

機材リスト [区分: 供与機材] (1)注: 価格はFOB、千円単位、未満四捨五入

取得年月	管理番号	機材名	規格・形式	数量	価 格	設 置 場 所	用 途	稼働状況
94.2	93-供-1	三菱 ROSA BUS	BC432ELHDDUA	1台	4,765	センター	研修員送迎及び現場への移動	
94.2(現)	93-供-2	パーソナルコンピュータ	DEC 466D2 LPX RAM 24MB	1台	735	システム開発部	システム開発	A
94.2(現)	93-供-3	パーソナルコンピュータ	DEC 466D2 LPX RAM 16MB	3台	470	水管理、研修部 システム開発部	システム開発	A
94.2(現)	93-供-4	X.Yプロッター	HP7475(A3)	1台	135	システム開発部		B
94.2(現)	93-供-5	デスクトップ	CALCOMP(A3)	1台	86	〃		B
94.2(現)	93-供-6	画像処理装置	FZ-93A-A3	1台	1,200	研修部		
94.2(現)	93-供-7	パーソナルコンピュータ	COMPAQ 486/25S	10台	208	研修部		
94.2(現)	93-供-8	噴墨プリンター	CANON BJ-330	9台	78	研修部		

A: 日常的に使用。B: 良く使用。C: 季節的に集中使用。

1993年度

機材リスト [区分: 供与機材] (注: 価格はFOB、千円単位、未満四捨三入)

取得年月	管理番号	機材名	規格・形式	数量	価格	設置場所	用途	稼働状況
94.3(現)	93-供-9	O・H・P	280mm×285mm	1	17		研修用	
94.3(現)	93-供-10	スライド		1台	73		研修用	
94.3(現)	93-供-11	ビデオ撮影機		1台	231		研修教材作成用	
94.3(現)	93-供-12	コンピュータ用ソフト		1式	100	センター		A
94.3(現)	93-供-13	電圧安定器	220V 50Hz	4	188			A
94.3(現)	93-供-14	電子翻訳機		2	100	設計基準部		
94.3(現)	93-供-15	ビデオ編集システム		1	90			
94.3(現)	93-供-16	ライシメーター		2台	780		注: 3月末納品予定	
94.3	93-供-17	ジープ	(ワゴン)1台	1台	2,478	センター	専門家通勤	A
	93-供-	ワゴン	4WD 7人乗り	1台				
	93-供-	コピー機	A3~B5	1台				
	93-供-	保管庫	スチール性					

A: 日帯的に使用。B: 良く使用。C: 季節的に集中使用。

1993年度 機材リスト [区分: 供与機材] (3)注: 価格はFOB、千円単位、未満四捨五入

取得年月	管理番号	機材名	規格・形式	数量	単価	発注場所	用途	稼働状況
	93-供-	気象観測装置		1	4,000			
	93-供-	熱収支測定装置		1	1,000			
	93-供-	テラソメーター		1	2,940			
	93-供-	セラミックス土壌水分計			300			
	93-供-	テラソメーター用カーブ			31			
	93-供-	照度計			1,000			
	93-供-	植物体内水分張力測定器			636			
	93-供-	砂柱法キット			287			
	93-供-	土壌圧戻測定器			1,450			
	93-供-	広域土壌PF測定器			2,090			
	93-供-	採土補助器			10			

A: 日常的に使用。B: 良く使用。C: 季節的に集中使用。

1993年度

機材リスト [区分: 供与機材] (4)注: 価格はFOB、千円単位、未満四捨五入

取得年月	管理番号	機材名	規格・形式	数量	価格	設置場所	用途	稼働状況
	93-供-	自記式現場透水性測定器		1	1,080			
	93-供-	シリンダーインテグレート測定器		1	580			
	93-供-	土壌三相計		1	517			
	93-供-	スライム試料円筒			340			
	93-供-	山中式土壌硬度計		1	58			
	93-供-	メスシリンダー			8			
	93-供-	土壌固粒分析器		1	760			
	93-供-	水圧式水圧計		1	1,600			
	93-供-	電子天秤		1	150			
	93-供-	ホーストホーカ-			83			
	93-供-	電気乾燥器			500			

A: 日常的に使用。B: 良く使用。C: 季節的に集中使用。

1993年度 機材リースト [区分: 供与機材] (5)注: 価格はFOB、千円単位、未満四捨五入

取得年月	管理番号	機材名	規格・形式	数量	単価	設置場所	用途	稼働状況
	93-供-	自吸式ポンプ		1	300			
	93-供-	ストレートエッジ			4			
	93-供-	一眼レフカメラ		1	100			
	93-供-	ズームレンズ	35~80mm	1	50			
	93-供-	ズームレンズ	80~200mm	1	100			
	93-供-	カメラ用ストロボ		1	30			
	93-供-	一眼レフオートフォーカスカメラ	35~100mm程度 のストロボ付け	1	100			
	93-供-	外枠シリンダ用 打込板		1	28			

A: 日常的に使用。B: 良く使用。C: 季節的に袋中使用。

携行機材

1993年度

機材リスト [区分: 主な携行機材] (1) 価格単位: 千円、未満四捨五入

取得年月	管理番号	機材名	規格・形式	数量	価格	設置場所	用途	稼働状況
93.6.10	93-携-1	書籍	水利参考書籍	167	500	センター	専門家及びカウンター・ネットの参考資料	B
"	93-携-2	IBM PERSONAL COMPUTER	THINK PAD550BJ 2437-YWB	1Set	445	YATA開発部	データの整理	A
"	93-携-3	NEC PERSONAL COMPUTER	PC8801 NS/R40	1Set	342	専門家室	データの整理	A
"	93-携-4	文房具類			356	専門家室	事務用品	A
94.2.24	93-携-6	PERSONAL COMPUTER	EZ486 TOSHIBA	1Set	280	灌漑排水部	データの整理 (見手倉短専)	B

A: 日常的に使用。B: 良く使用。C: 季節的に集中使用。

現地購入機材

1993年度 現地購入機材リスト No.1 1994年3月15日現在

購入年月日	No	機材名	規格・形式	数量	価格・中国元	設置場所	用途	備考	稼働状況
93.06.30	1	製図台		1	1,413.10	センター		研93/1/08	B
07.19	2	ホワイト・ボード	90×120cm	2枚	920.00	専門教室		研93/2/01	A
08.07	3	金庫	黒龍港マーク	1	745.00	専門教室	現地業務管理	-93/2/27	A
08.07	4	卓上計算機	Truly-836	5	752.00	専門教室	事務用	-93/2/28	A
08.13	5	本棚		2	1,530.00	〃		食93/2/38	B
08.23	6	FAX機	OF-8M	1	8,800.00	調整員室		-93/2/49	A
08.31	7	ホワイトボード予定板	90×120cm	6	1,920.00	センター各部署	事業日程整理	食93/2/62	A
09.17	8	7-7用プリンタ	EPSONMJ-1000	1	5,158.62	調整員室	事務用	-93/2/83	A
11.24	9	会議用ホワイトボード	90×120cm	1	710.00	大会議室	会議用	食93/3/51	A
11.30	10	CANONJL-1機	NP-1215型	1	9,975.00	センター北室	(折半負担)	食93/3/57	A
12.10	11	電気ストーブ	CJT-808	6	998.00	専門教室		-93/3/83	C
01.11	12	プリンタインク	IBM		3,778.53	システム開発部	資料整理	-93/4/05	A
01.11	13	バッテリー	IBM		1,478.52	システム開発部		-93/4/06	A
01.12	14	ビデオカメラ	JVC HR-D92HS	1	4,500.00	センター	同上	-93/4/09	B
01.20	15	組立工具一式		1set	724.50	センター	メンテナンス用具	-93/4/14	B
01.20	16	中文ワープロ	科理 KL-8701	4	25,200.00	センター各部	ワーダ整理	-93/4/15	B
02.07	17	コンピュータ計算機	COMPAQ PROLINEA	1	17,800.00	濯洗排水部	ワーダ整理	-93/4/32	A
02.07	18	会議机及び椅子		31	12,000.00	大会議室	会議用	-93/4/33	A
02.15	19	複製写真機		1	2,810.00	水管理部	試験面場整備	-93/4/35	C

注：現地で購入の上、供給した機材類の内ほぼRMB#500以上のものに付き、このリストにまとめらる。A：日常的に使用。B：良く使用。C：季節的に集中使用。

JICA